

Risk Flash No.118 (Vol.4 No.8)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- シリーズ「グローバル化と外国語教育」：第3回 鍋倉聡・・・・・・・・・・・・・・・・ Page 1
- 研究紹介：宇佐美英機・リスク研究センター通信・・・・・・・・・・・・・・・・ Page 2

グローバル化と外国語教育③

グローバル化と第二外国語教育

なべくら さとし
社会システム学科准教授 鍋倉 聡

グローバル化の進展によって、言語的背景の異なる者どうして接することが一層避けられなくなる中、外国語教育の重要性が唱えられています。しかしながらその一方で、大学における外国語教育、とくに大学入学後に一から始める第二外国語教育は、むしろ困難になっているのが現状です。

海外はかつて、遙か遠く離れた憧れの存在で、この憧れが外国語学習の大きなモチベーションになっていました。それが、グローバル化の進む現在、単純素朴な憧れは存在せず、海外は憧れの対象というよりも、リアルで厄介な対象となっています。

学生は、リアルで厄介な現実を避けようとするのを考えても不思議ではなく、こうした中、単に理念的にグローバルを説いても、今さら外国語の学習意欲を高めることを保証しません。外国語教育は、むしろ必要に迫られた中でのサバイバルの手段として位置づけた方が、少しは有効なのかもしれません。

以上の状況の下、滋賀大学経済学部入学後に一から始める第二外国語教育は、どうすればよいのでしょうか？

これは答えるのが難しい問いですが、ヒントになるのは、本学部への入学後に、第二外国語を一から必死に学ぼうとしている学生が、少ないながらも存在することです。このような学生を発掘し、本学と学生交流協定を結んでいる海外の提携大学へ交換留学させて、徹底的に教育することです。

海外へ行きっ放しにさせてはいけません。重要なのは帰国後です。帰国後、こうした学生を「学習アシスタント (SA)」に起用する等して、後輩たちの手本にするのです。大学入学以前にその言語を身につけた学生やネイティブスピーカーではないことがミソです。

私が担当している中国語を例に記すと、日本人の中国語学習で最大のネックとなるのが発音の習得です。習得にネイティブスピーカーの発音を聴くことも重要ですが、口や舌の動かし方や息の出し方が全く異なるため、幼少期ならともかく、既に成長した日本人の大学生にとって、同じようにすることは不可能に近いと言わざるを得ません。

こうした中で有効なのが、中国語の発音に対するサバイバル方法を、大学入学後に現地で身につけた身近な日本人から、具体的な対処法を学んでいくことです。教員よりも格好なのが、入学後にそれを習得した学生です。滋賀大生の先輩による具体的な対処法を目の当たりにすることで、中国語を学んでいく格好のモデルを得ることができるのです。

留学した学生自身にとってもまた、交換留学で得たことを授業に還元し、自らもさらにステップアップしていくことができます。

しかし、以上のプランを私は「SAの任用予定」として昨年2月に申請しましたが、却下されました。別の案も思い浮かばない中、本学部において第二外国語教育を有効に行うのは、やはり困難なのかもしれません。

研究紹介

伊藤忠兵衛家同族事業経営の研究(上)

企業経営学科教授 うさみひでき 宇佐美英機

現在、私が取り組んでいる仕事の一つは、伊藤忠兵衛家同族の事業経営の分析である。周知のように、初代伊藤忠兵衛は滋賀県犬上郡豊郷町字八目に生まれた人物であり、総合商社伊藤忠商事・丸紅の創業者である。

伊藤忠商事も丸紅も、創業100年(1958年)を契機に社史を編さんに着手したが、そこでの叙述は、それまで両社に保管されていた史資料をもとにされたと思われる。そして、『伊藤忠商事100年』が1969年に刊行され、『丸紅 前史・本史』は1977年に刊行された。社史刊行以降の両社ならびに伊藤家にかかる研究は、この両社史の記述を典拠文献として利用されてきたのである。

しかし、たまたまの奇貨であったが、私は2003年8月に豊郷町に所在する伊藤忠兵衛記念館敷地内の土蔵・物置の中から膨大な史料を発見するに至った。これらの史料は伊藤家のご高配のもと、経済学部附属史料館に搬入し、翌年春から整理・史料目録の作成に取りかかった。本年春に9年がかりの整理作業が終わり、5万点超の文書群であることが判明した。また、この文書群の発見をうけて、丸

紅・伊藤忠商事の両社が保管する社史編さんにかかる史資料を史料館にお預けいただけるようお願いをし、幸いにご了解を得て、2010年2月に史料館に搬入することができた。これらの文書群は、詳細目録は完成していないが約5千点にのぼるものと推測している。これらに加えて史料館では、すでに寄贈されていた伊藤忠兵衛家の本家である伊藤長兵衛家の約8千点の史料目録を2008年10月に刊行、公開している。

すなわち、伊藤忠兵衛家同族による事業経営の実態を分析するための6万点以上の史資料は、すべて史料館に集約して保管されているのである。このような、創業年から現在まで存続する特定の商家・企業の経営にかかる第一次史料群を保管する本経済学部は、日本では希有な存在である。多くの経営史・経済史研究者が羨ましがる学術環境が、彦根に存在するのである。この職場に奉職している者にとって、この機会を逃すわけには行かないし、研究を進めるのは私に課された義務でもあると理解している。

リスク研究センター通信

滋賀大マルシェ 2013「環境こだわり農産物 春の収穫祭」のご案内

<http://www.shiga-u.ac.jp/9/9/res.14/chirashi5.pdf> をご覧ください。

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

(<http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2/3:12>)

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、金秉基、久保英也、
柴田淳郎、得田雅章、宮西賢次、山田和代

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours:月一金 10:00-17:00）

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page: <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>